
モルゴア・クアルテット Morgaua Quartet

MORGAUA QUARTET（モルゴア・クアルテット）はショスタコーヴィチの残した 15 曲の弦楽四重奏曲を演奏するため 1992 年秋に結成された弦楽四重奏団。

翌'93 年 6 月に第 1 回定期演奏会を開始。

2001 年 1 月の第 14 回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全 15 曲を完奏。

同年 4 月、第 2 ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。

'01 年 11 月からは「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催公演で《モルゴア・クアルテット ショスタコーヴィチ・シリーズ》を 5 回に亘って行ない、'03 年 12 月に 2 度目の完奏。

'03 年 6 月の第 19 回定期演奏会でベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲を完奏。

'05 年 4 月、マイスター・ミュージックから《ボロディン：弦楽四重奏曲集》を発売。

'06 年 6 月第 25 回定期演奏会でバルトークの弦楽四重奏曲全 6 曲を完奏。

同'06 年 9 月には「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催でショスタコーヴィチ生誕 100 周年記念弦楽四重奏曲全曲演奏会を行ない、3 日間で全 15 曲を完奏。

'08 年 11 月、東京フィルハーモニー交響楽団 第 761 回サントリー定期シリーズにマルティヌー作曲「弦楽四重奏と管弦楽のための協奏曲」のソリストとして招聘され、弦楽四重奏団としての高いクオリティを評価された。

'09 年 1 月の第 30 回定期演奏会でベートーヴェン中期弦楽四重奏曲を完奏。

'12 年 6 月と'14 年 5 月、そして'17 年 3 月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシブ・ロック・アルバム《21 世紀の精神正常者たち》《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。

ショスタコーヴィチ没後 40 年（2015）から生誕 110 年（2016）をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全 15 曲演奏会」を'15 年大晦日から'16 年元旦にかけて「横浜みなとみらい小ホール」で演奏。瞠目のプログラムで多くの聴衆を集め、4 度目の完奏。

'17 年 6 月、結成 25 周年記念コンサートを福島、東京（vol.1）で開催。

1998 年 1 月第 10 回「村松賞」受賞、2011 年 5 月「2010 年度アリオン賞」受賞、2016 年 9 月「第 14 回佐川吉男音楽賞 奨励賞」受賞。

モルゴア・クアルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。

「モルゴア」はエスペラント語（morgaŭa = 明日の）に原意を持つ。

(2017 年 8 月現在・転載禁止)